

『継母の心得』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『継母の心得』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『継母の心得』を読んだことのある10代～50代の男女16名
調査期間	2026年2月5日～2026年2月6日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/keibonokokoroe/

■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えて下さい。

Q2: 『継母の心得』を実際に読んだ感想を教えて下さい。

Q1: 年代と性別を教えて下さい。

20代男性	0人
20代女性	0人
30代男性	1人
30代女性	0人
40代男性	0人
40代女性	11人
50代男性	4人
50代女性	0人

Q2: 『継母の心得』の感想を教えて下さい。

継母の心得 1話 前世の知識と経験が活きた展開となっていて、非常に面白かったです。中でも印象に残ったの

~5話	は、イザベルがプレゼンするシーンです。いきなり提示された情報から、よくぞここまで分析できたものだと感心しました。子供用品店をどのように運営していくのか、気になりました。前世の知識のおかげで、子供用品の開発には困らないでしょう。しかし店舗の運営はまた別だと思います。経験がないどころか、勝手も違う世界なのですから。この苦難をどのように乗り越えていくのか、注目したいです。
継母の心得 1話 ~5話	異世界の貴族のご令嬢として転生するお話の場合、たいていは没落寸前の家に生まれた地味で素朴な女の子か、ヒエラルキー上位の家の娘だけど高慢で我儘で嫌われ者の2択なので、本作のイザベルは貧乏なのに悪女だとウワサされているという設定が新鮮でユニークだと思いました。優しそうなお父さんからはきちんと愛されているようですし、遠慮のない物言いから察するに侍女や弟とも陰悪ではないようで、さらにディバイン公爵家でも冷遇されることではなく、ことごとく定番から外れているところが面白いです。
継母の心得 1話 ~5話	テオバルドがメイドらしき女性から無理矢理迫られたらしいシーンがワンカットだけ挿入されていたので、それが彼が女性に対して冷徹な態度をとる理由の1つだと思われますが、自身の息子であるノアにも徹底的に無関心を貫いているあたり、もっと根深い何かが過去にあったのではないかと予想されるので、テオバルドと前妻との関係など過去編も読んでみたいと思いました。
継母の心得 1話 ~5話	イザベルの母性本能が、ノアたちの心に伝わって、少しずつだけど打ち解けていく様子に心がほっこりしました。異世界に転生したばかりなのに、ちゃんと自分がどういう立ち回りをしたら良いのか考えられるイザベルも相当凄いと思います。まだ序盤にも関わらず、登場人物たちの個性が満開なのでどのエピソードを読んでもワクワクできるのがこの作品の魅力ではないでしょうか。
継母の心得 6話 ~10話	子供用品店の営業が上手く行って何よりです。言うは易く行うは難しそうな言葉があるように、店舗運営に苦戦するのではないかと心配していたので。ところが店舗は大成功。貧乏だったシモンズ伯爵家を救うことにもなったでしょうし、ホッとしました。気がかりなのは、ノアとテオバルトの関係です。これまでの経緯から、テオバルトが女性を嫌う気持ちはわかりました。しかし、ノアは自分の息子です。血の繋がった我が子に対して、この距離感は異常ではないでしょうか。なぜこのような歪な親子関係になったのか、その事情を知りたくなりました。
継母の心得 6話 ~10話	イザベルがピアノを弾きながら、日本の少年向けアニメの曲と思われる歌をとっても楽しそうに大熱唱するシーンは非常に躍動感にあふれていて、思わず声を出して笑ってしまいました。また、『原作漫画』では読んだ覚えがないらしい、イザベルがテオバルドに泣いて縋る姿がチラッと出てきたことから察するに、イザベルが亡くなった後に美咲に生まれ変わって、その後にまた美咲がイザベルに生まれ変わったのかもしれませんと思いました。
継母の心得 6話 ~10話	ノアがもう完全にイザベルに懐いていて、彼女がいない寂しさや不安からひたすら泣きじやくっている姿がとってもいじらしくてキュンときてしまいました。ディバイン公爵家の使用人たちも人柄が良い人ばかりのようで、必死にノアがイザベルの不在に気付かないようにしたり、泣き止まないノアを優しくあやしたりしていて、微笑ましい光景にほっこりしました。
継母の心得 6話 ~10話	イザベルが開いた子供用品のお店が内装もコンセプトもとても素敵で、行きたくなりました。現代社会なら似たようなお店はあるかもしれません、キレイな絵柄で華やかかつメルヘンに描かれているので本当に魅力的に見えて、子どもと一緒に通いたくなりました。また、以前のイザベルは評判が良くなかったそうですが、そのわりに弟のオリバーとの仲は悪くなく、新素材の開発について度々イザベルを褒め称えているのが微笑ましく、胸が温まりました。
継母の心得 11話~15話	イーニアス殿下が可愛いお子さんでビックリです。というのも、イザベルの原作知識を見る限りでは、性格の悪い子供である可能性がありました。それがまさか、ノアに負けず劣らずの愛らしいお子さんだったとは。ノアと楽しそうにお喋りするシーンが可愛すぎました。気がかりなのは、イーニアス殿下が黒蝶花を上手く採取できるかどうかです。毒の原材料となるぐらいですから、危険なものであることは間違ひありません。一応防具を用意したとはいって、四歳の子供がうまく扱えるかどうか、不安に感じました。
継母の心得 11話~15話	イザベルがテオバルドに対して言いたかったことを思い切りぶつけたことが功を奏したのか、イザベルが本当にノアのことを真摯に想っていることをテオバルドが理解してくれたようで、ちょっとずつ彼の態度が軟化してきているのが嬉しいです。今は全く恋愛要素がありませんが、いつかはイ

	ザベルとテオバルトが本当の夫婦になる日がくるかもしれませんと思いました。
継母の心得 11 話～15話	イザベルが知っている『原作漫画』のストーリーでは敵対する運命にあるらしいノアとイーニアスが、すんなり意気投合して仲良く遊ぶ無邪気な姿がとっても可愛くて、癒されました。またイーニアスは、皇帝の子どもならもっと偉そうな態度をとっても不思議ではないのに、うまく話せないノアのことをちっとも見下す様子がなくて、本当に良い子だなと思いました。2人にはずっと仲良しでいてほしいです。
継母の心得 11 話～15話	人の命がかかっていて、イーニアスに頼る以外の方法がないとはいって、事情をすべて説明していない状態でまだ幼い子どもに実質盗みを働くかせるのは、さすがにイーニアスがかわいそうではないかなと感じてしまいました。ネロウディアスはたとえ我が子が相手でも、自分の意にそぐわないことをすれば容赦なく処罰を下しそうなので、計画がバレてひどい事態にならないか心配です。
継母の心得 16 話～19話	敵だろうと思っていた皇后陛下が味方になったことに驚きました。原作だと、イーニアス殿下はノアの敵です。イーニアス殿下がノアを敵視していたのは皇后殿下の影響を受けていた可能性が高く、ノア達に良い感情を持っていないと思っていました。それだけに、皇后陛下がテオバルトのファンだと知った時は衝撃を受けました。気がかりなのは、悪魔アバランです。オリヴィアの傍にいるとは思ってもみませんでした。諸悪の根源はアバランっぽいように思いますし、今後どのように活動するのか注目したいです。
継母の心得 16 話～19話	イーニアスはノアよりもずいぶんしっかりしているので、だからこそ1人でこっそり花を摘むミッショーン中は、ネロウディアスにバレた時のことを考えてかなりの恐怖を覚えていただろうと思います。そんなイーニアスの緊張や、無事完遂した後の安堵が表情や言葉のはしばし伝わってきて、大人びていてもまだまだ甘えたい子どもなんだということを再認識させられて、怖かったのに頑張ったね！と声を大にして褒めてあげたくなりました。
継母の心得 16 話～19話	皇后様は顔立ちや振る舞いだけ見ると高飛車で傲慢な印象を受けますし、実子であるイーニアスとそれほど関わっていないような描写があったので、もしかすると悪女キャラで、イザベルと敵対するのかもしれないと思っていたので、ノアとイザベルの血の繋がりについて言及した後の態度や、ネロウディアスから庇ってくれた後の気さくな態度を見て、実はかなり良い人だったことに衝撃を受けました。そして、ノアと仲良くなったイーニアスのお母さんである皇后様がイヤな人でなかったことにホッとしました。
継母の心得 16 話～19話	普段一緒に遊ぶ機会などそうそうないと思われる母親と一緒におでかけするというイベントで、めずらしく年相応にはしゃいでいるイーニアスがとても可愛かったです。また、一人称を使い分けることで公私のスイッチをオン・オフする皇后様がなんだかおちゃめでしたし、母親として息子を死に守ろうとしていることを知って、親近感を覚えました。